

English in Action Online と共に学ぶ

カナダ・ケベック州の修道院を母体とするカリタス小学校では開校当時から外国語としてフランス語を教えてきた。だが時代の流れで、2014年から英仏語の複言語教育に取り組んでいる。英語の教科書として採用したのが *English in Action* (久埜百合著 ぼーぐなん社) だった。音を重視していることと、著者の久埜先生がアドバイザーになって下さることが採用の大きな理由だった。2015年夏には当時の萩原校長と久埜先生との間で、「電子黒板とタブレットを有効活用した語学授業」に向けての新構想が話し合われた。紙媒体とCDだった *English in Action* 4冊を3OS、つまりアンドロイド、Windows, iOS のいずれでも使えるようにし、家庭と学校を結ぶデジタル化構想である。翌年3月末には4冊のOnline化が完了したので、教材として利用しやすくなった。テキストの各ページだけでなく、英単語、英文1行1行、そしてイラストにも音声が付付けられ、ゲームも加筆されて、小学生向け英語テキストとしては画期的なものだった。ただ、当初は授業では電子黒板上で使用し、家庭学習用として若干の希望者が購入するにとどまった。4冊のデジタル教科書を3年間(4~6年)使いたい放題で費用が11,000円 ※本体価格(1か月300円ほど)と説明しても、全員購入にはならなかった。その後、校内でiPadを使うようになり、各教室に電子黒板が設置され、確実に学校全体がIT化に動いた。ついに2020年4月、4年生以上全員がOnline版を購入することになった。期せずして、コロナで休校になり、5月連休明けからは遠隔授業が始まった。そこでOnline版が思った以上の活躍をした。Zoomでデジタル版を画面共有して授業をするが、教師は「宿題として教科書の**ページの音読を練習してね。できたらLoilo(注)に録音して送って」と言うだけ。良い音が、文を見ながら聞ける。それを聞いて音を真似して録音するもよし、ノートに書き写して写メで送るもよし。付属のゲームも何度も楽しめる。生徒の学習回数もページ毎に記録される。簡単な書き込み機能があり自分で気になった箇所に線を引くこともできる。付属のワークブックもOnlineで学習できる。4冊まとめて購入しているので復習・予習が自分のペースで行えて自立学習につながる。授業時間は週2回と限られるが、Online版を開いて音を聞き、音読練習をすることは、いつでもどこでもできるようになった。まさに夢の教材ではあるが、忙しい子どもたちをどこまで意欲的に学習に引きつけられるか、教師の本気度が試されている。

(注) Loilo Note for School

カリタス小学校 麻田美晴

[English in Action Online](#) は、[こちら](#)

■[現在までに掲載済みの「ぼーぐなん広場」リスト](#)

■[「えいごリアン・コーナー」](#)

■[研修・セミナーのご案内](#)

■[久埜百合著教材のホームページ](#)